

京style

京都の季節の注目
スポットをご紹介します。



愛宕山からの見る市内



愛宕神社

阿耨
火
要
慎



二寧坂

まだまだ暑い京都ですが、9月も半ばになるとちらほらと秋の気配を見つけることが出来ます。本格的な行楽シーズンは目前ですが、たまにはいつもとは違う観点で市内を巡ってみませんか？今回は「防災」をテーマにいくつかのスポットをご紹介します。まずは京都のハイキングコース、愛宕山。「伊勢へ七たび、熊野へ三たび愛宕さんへは月詣り」と言われ、市民に親しまれている山は標高924メートル。京都市最高峰の山で山頂には愛宕神社の総本山があります。愛宕さんと言えば「火廻要慎」のお札が有名で、京都の家の台所や飲食店でよく目にします。これは火の用心とは違い「火をしずめる」という意味。古のころ、愛宕山上空で発生した雷雲による落雷で度々起こる火災から都を守る為、火防の神社としてつくられたのが愛宕神社なのです。参詣にはちょっと気合が必要ですが、頂けるお札はその分ご利益も大きそうですね。愛宕山の山頂には水道がありません。飲み水やお弁当もご持参下さい。

市内に戻って上京区にある北野天満宮。ここは菅原道真で有名な学問の神様です。この北野天満宮の一の鳥居のたもとにある石燈籠、良く見ると江戸の火消しの頭として有名な「新門辰五郎」の名前が刻まれ「を組」の纏の形も刻まれています。辰五郎が江戸の火消しの安全を祈願して奉納したものです。

場所は変わって市内中心部の二寧坂。古い町並みと石畳が情緒あふれる散策道。風情ある町屋が続く街並みですが、良く見ると町屋の軒下には格子状の「虫籠窓」。泥棒の侵入を防ぎつつ明かりや風を取り入れるための工夫がみられます。又、町屋の境界線の壁が横に張り出した袖壁は「卯建（うだつ）」と呼ばれ隣家からの延焼を防ぐ役目がありました。虫籠窓で開口部を減らし卯建で延焼を防ぐ・・・先人の知恵、京町屋の防火対策です。



ぴらたん

消防団旗

お手元の消防団旗は指揮の象徴として、胸をはっていますか？悲しいほど劣化していないでしょうか。2014年の出初式は新たな気持ちにさせる新調した格別の消防団旗を是非、ご提案ください。



今すぐ
アクセス！

京都 平岩

株式会社 平岩

〒604-0907 京都市中京区河原町通竹屋町上ル
TEL 075-222-1041